

小池 宏明 牧師

今回から教会学校教案誌『成長』の聖書箇所に沿って御声を聴く。新来者、求道者と子どもたちの救いのために仕えていきたい。

*大切なライフライン(生命線)

一般的にライフラインと言えば、私たちの生活と命を守るために大切な電気、ガス、水道のことを指す。では私たちの心のために必要なライフラインは、何だろうか？ 私たち人間の心に必要な生命線は、御ことばと祈り。御ことばは食べ物、祈りは呼吸と言われている。食べ物が食べられない、呼吸が止まる、それはいのちを失うことを意味する。御ことばと祈りがなければ心は飢餓状態、餓死寸前なのだ。

*祈りについての二つの落とし穴

①偽善者のような祈り

5節「また、祈るとき偽善者たちのようであってははいけません。彼らは人々に見えるように、会堂や大通りの角に立って祈るのが好きだからです。まことに、あなたがたに言います。彼らはすでに自分の報いを受けているのです。」

ユダヤ人の祭司や律法学者たちは、祈りの時間に、あえて会堂に出て来る、大通りに出て来る。他人に見せるための祈りだから。他人から信心深い立派な人だと思われたいから。自分を偽って良い人だと思われたいから。

この事は、人前で祈る機会がある司会者や牧師なども気を付けなければならない。人前で祈る時は、そこにいる人を意識しすぎることなく、純粋に主なる神様に祈りが捧げられるように、整えて臨みたい。

②異邦人のような祈り

7節「また、祈るとき、異邦人のように、同じことばをただ繰り返してはいけません。彼らは、ことば数が多いことで聞かれると思っているのです。」

唯一の神を信じているユダヤ人に対して、異邦人は、例えばギリシャ人などは、いろいろな神々を信心していた。異邦人にとっては、そして、日本の神々を信奉している方々もそうかもしれないが、信心の心が大事であって誰に向けて祈るのか、あまり問題にしていないかもしれない。たくさんの言葉を並べて、長々祈れば、どれかの神様に聞いてもらえるはず、熱心に祈れば必ず実現するはずだ！と思いついでしまうのが異邦人の祈りである。第一列王記18章のエリヤとバアルの預言者たちとの対決を読んでみよう。

*祈りとは生ける神様との対話

祈りとは「生ける主なる神様との会話」である。聖書の神様が求めている祈りは、誰に向けられて祈るか、はっきりしている。主は「わたしに心を向けて祈ってほしい」と求めている。「わたしに何でも話しかけてほしい！」と招いておられる。マタイ6章6節でイエス様が教えられた。「あなたが祈るときは、家の奥の自分の部屋に入りなさい。そして戸を閉めて、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れたところで見られるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。」ある人は言った。「神様は隠れんぼが好きなんだ」と。隠れているお方を捜すには、私自身も隠れた所に行かないと出会えない。奥の部屋(密室)に入ろう。主は豊かに報いて下さるのだ。

一方で、イエス様は、集まって祈ることも求めている。(マタイ18:19-20)今は新型コロナの問題で難しいかもしれないが、教会は「祈りの家」と呼ばれるように、集まって「聖書の学びと祈り会」を開催できるように祈り求めよう。